

21. 地下水のはなし

(財)熊本開発研究センター製作
(財)熊本開発研究センター (1995)
A 5 判 p.103
定価 1,000 円



目次

地下水の恩恵を考える

量的な恩恵／断水経験のない熊本地域

質的な恩恵／蛇口からミネラルウォーター、地下水は 35 兆円？

経済的恩恵／必要な水をダムで給水したら、水道料金では、観光面からみると

熊本・福岡市民生活用水アンケート

水道水への高い評価、求められる節水意識、風呂水の再利用がカギ、水源を守る費用負担／節水器具による具体的な効果は

豊かな地下水の仕組み

熊本地域の水資源量、阿蘇山の恵み、水田からの恵み

地下水がつくられるかん養域の変化

かん養域の土地利用の変化、工業団地の分布、大津町・菊陽町の農業

地下水の利用と湧水の変化

地下水利用の変化と現状、湧水の変化と現状、湧水量の減少原因

地下水保全への取り組み

市民が利用可能な援助制度、雨水浸透施設と雨水利用施設、地下水保全産業、地下水保全産業発展の課題

住民一体となった連携へむけて

墨田区の取り組み、豊田市の取り組み、地下水は私水か公水か？

紹介コメント

この本は、一般向けの地下水の解説書であるが、製作が(財)熊本開発研究センターとなっているように、熊本の地下水を中心とした内容の 100 p 余りの小冊子である。熊本地域は豊かな地下水資源に恵まれているが、その仕組みについてと、地下水の恩恵を受けているが、その水源となる涵養域の重要性を含め、その保全についても考慮していくことの大切さについて解説している。特に地下水に対する意識とって面から熊本と福岡での生活用水に対する違いについても示している。さらに住民一体となった東京都墨田区や愛知県豊田市の事例も紹介している。地域の地下水に関する書籍ではあるが、地下水の大切さを説いた良書であり是非読んで頂きたい。